



明けましておめでとうございます。

初日の出が神々しく輝く
そんな令和7年の元旦を迎えた。

昨年の元旦は、能登半島地震があり
多くの人が被災した。

9月には追い打ちをかけるかのように
能登半島豪雨災害があり復興を阻んだ。

しかし、現在の能登半島の人々は
これだけの困難の中でも、

「前を向いて進む」と取材に答えていた。
自分が同じ立場だったら

こんなに強く生きられるか？疑問を感じる。

そんな中で、
普通の生活を送れる事へ、感謝する。

今年もつじが丘ふたばランド保育園は、
子ども達を真ん中にして
保護者、職員皆で楽しめる保育園生活を
目指してゆきたいと思えます。



行事予定表	
1	水
2	木
3	金
4	土 保育始め
5	日
6	月
7	火 交通安全教室(4・5歳児)
8	水
9	木
10	金 もちつき
11	土
12	日
13	月 成人の日
14	火 体操/巡回相談/ピヨピヨひろば
15	水
16	木 カレーの日
17	金
18	土
19	日
20	月 小学校見学(5歳児)
21	火 体操
22	水
23	木
24	金 避難訓練
25	土
26	日
27	月 体操
28	火
29	水 リトミック
30	木 誕生会
31	金

「子ども叱るな来た道だ」

年寄り笑うな行く道だ (作者不詳)

最近、この言葉の意味に、なるほどその
通り・・・と思う。自分の子どもは、自分の
分身のように感じる瞬間があるかもしれない
ないが、子どもは親とは別の一人の人間だ
と客観的に見ることも必要だと思ふ。親や
年寄りの言動に不満を感じることもある
かもしれないが、自分もその年齢になると
同じようになるかもしれない。
世の中の人々が皆、おろからで優しくなれる
1年となりますように...



今月の予定の中から

●もちつき (10日)

・3歳児以上が、本物の臼と杵で餅つきを
行います。0・1・2歳児は、出来上がった餅を使
いミニ臼とミニ杵で餅つきを楽しみます。昼食
は、全員お雑煮風うどんと0・1歳児わかめご
飯、2・3歳児きな粉ぼたもち、4・5歳児き
な粉もちです。貴重な経験となりますように。
●小学校見学 (20日)
・牛久第二小学校へ5歳児の子ども達が見学
に行きます。就学への期待へ繋がりますように。
●リトミック (29日)
・今年度最後のリトミックになります。

保育の中で繰り返している中で、子ども達
はピアノの音に反応して身体表現できるよう
になってきました。

●誕生会 (30日)

・今月は、寒い時期に産まれた子ども達の誕生
会です。保護者の方も、風邪をひかないよう
にお子さんを育てるのに気苦労も多かったこ
とでしようね。

★お知らせ☆

・2月の保育参観について

3歳児以上は、保育参観のなかで合奏を披露
します。内容につきましては、後日お知らせし
ますが、保護者の方は、2名まで参加可能で、
時間は、9:20～10:30の予定です。

平和で貧困のない世界を願って

イラクから来た途中入園のH君は、入園当初
は、全く日本語が話せず、集団のルールも分
からず、暴れ回っていた。ピアノの上に登つ
たり、机の上に乗ったり、危険な行動をした。
友達を突然、後ろから突き飛ばしたり、プー
ルの水の中に頭を押し込んだり、傍若無人の
振舞いだった。子ども達もHにやられたと
訴えてきて、Hを恐れた。アウトローだった。
そのうち、保護者からも苦情が来た。「少し待
って下さい。すぐに集団に慣れ、落ち着いて
きますから」と理解を求めた。担任の先生は、
手を焼いていたが、暖かく見守っていた。私
もいつも注意して見ていた。H君は、良く遊
ぶ子で、利発で活発でした。そのうち集団で
の遊びにも積極的に加わり、いつもニコニコ
と友達との関わりを求めた。お母さんは、ほ
んど日本語が話すことができなかつたが、
H君は2～3ヶ月もすると会話ができるよ
うになり、友達や先生ともコミュニケーション
をとれるようになった。友達との関係も良
好になり、一層、仲良く遊べるようになった。

遊びの中でも、友達に手を差し伸べ、助ける
姿も見受けられた。子どもの成長、発達の本
当にすごいと感心し、彼の成長がとっても嬉
しかった。「家でも、乱暴な行動がなくなり、
とても落ち着いて、Hは変わった。この園に
出会えて良かった。Hはこの園が大好きで
す」とお父さんは言った。▼そのH君のお父
さんから、11月中旬に突然、退園したいとの
申し出があった。事務から、園への未払金が
滞っているとの報告があった。直前に、未払
いのまま退園して行ってしまった人がいたの
で、どうしようと言ってきた。事情を聞
くと、お金がなく、生活が苦しいので、お母
さんと子ども達だけ国に帰るとのことだった。
そんな事情を聞いたら、お金は払ってもらわ
なくともいいので、請求しなくてもいいと伝
えた。しかし、11月の末にお父さんがやって
来て、残金を精算していった。翌日、帰国す
るまで、全ての料金はいらぬから、是非、
園に来て遊ばせて下さいと伝えた。明日、帰
国することだった。バクダートの冬は寒
いので、H君とご家族が好きになってくれた
ふたばのマークが付いた長袖の園服をプレゼ
ントすると、お父さんは、「イラクでふたばの
マークのついた服を着せませう。私泣いちゃい
ます。嬉しいです。本当にありがとうございます。この
園に來られて本当良かった。」と言って帰って
行った。▼お金がないのに、生活が苦しいの
に、きっとお金をかき集めて支払に来てくれ
たのだと思うと、未払金を受け取らなければ
よかつたと後悔した。そして、あんなにこの
園を好きになってくれたH君、お父さん、ご
家族を思うと、遠くの空をながめて、今どう
しているのだろう、楽しく生活して幸せにな
って欲しいと祈らずにいられない。新年にあ
たり、世界中から戦争、貧困、格差、差別が
ない平和な世界になることを祈ります。

理事長 浅田 精利

